

# いじめ問題に関する指導方針



つくば市立輝翔学園谷田部中学校

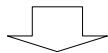
# 1 いじめを生まないための取り組み

## (1) 学級経営の充実

- ①生徒に対する教師の受容的、共感的態度により、生徒一人一人のよさが発揮され、互いを認め合う学級を作る。
- ②生徒の自発的、自治的活動を保障し、規律と活気のある学級集団づくりを進める。
- ③正しい言葉遣いができる集団を育てる。  
「キモイ」「ウザイ」「死ね」などの人権意識に欠けた言葉遣いへの指導が重要となる。

## (2) 授業中における生徒指導の充実

「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」のある授業づくりを進める。  
「楽しい授業」「わかる授業」を通して生徒の学び合いを保障する。



授業での喜びを感じさせる。

- ・教室を出て行った生徒に対する関わり（ほおっておかない）
- ・自分は大事にされているという意識を持たせる。（自尊感情の高揚）

## (3) 道徳において

- ①いじめを題材として取り上げることと指導計画に位置付け、いじめを許さない心情を深める授業を工夫するとともに、人権意識の高揚を図る。
- ②思いやりや、生命・人権を大切にすることを指導の充実に努める。

## (4) 学級活動において

- ①話し合い活動を通して、いじめの未然防止や解決の手だてについて考え、いじめにつながるような学級の諸問題の解決を図る。
- ②構成的グループ・エンカウンター等の社会性を育てるプログラムを体験したり、ソーシャルスキル（相手の気持ちを気遣うスキルや自分の気持ちを伝えるスキル）等の訓練をしたりすることにより、学級内の人間関係づくりとコミュニケーションの活性化を図る

## (5) 学校行事において

- ①生徒が主体となり、達成感や感動、人間関係の深化が得られる行事を企画し、実施する。
- ②生徒会活動において
  - ・自分たちの問題としていじめの予防と解決に取り組めるよう活動を進める。  
(生徒会主体の「**思いやり宣言**」等との企画運営との展開)
  - ・リーダー研修会でのいじめ問題への取り組み

## (6) 家庭や地域との連携

- ①いじめの背景には、学校、家庭、地域社会にある様々な要因があることを共通理解し合い、積極的な連携を図るとともに、いじめに関する講演会を実施する。
- ②PTAが中心となって、いじめに関する意見交換を行う。

## 2 早期発見のための取り組み

### (1)複数の教員の目による日常の交流をととした発見

- ①多くの教師が様々な教育活動を通して、生徒に関わることにより発見の機会を多くする。
- ②授業中、休み時間、放課後の校内巡回を計画的に行う。  
授業中、いない生徒の搜索や話を聞く場合、学年のみで行わないで、全職員で取り組む。
- ③スクールカウンセラーやスクールサポーターに、積極的に学級訪問、授業参観などをしてもらう。
  - ・スクールサポーターからの情報提供を、生徒指導部で共有する。
  - ・連絡ノートを通して、生徒指導主事と複数のスクールサポーターの情報を共有できるようにする。
- ④アンケート等の調査を計画的に行う。  
「学校生活アンケート」「いじめ実態調査」を年3回、定期的を実施する。(4, 9, 2月)  
アンケート、調査の集計や分析には、担任を中心に複数の教員であたり、記述内容の分析などにはスクールカウンセラー等の専門的な立場からの助言を得る。
- ⑤教育相談による把握
  - ・担任による定期的な面談を実施する。
  - ・生徒の希望や相談が必要と思われる場合は、担任以外（教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールサポーター等）でも相談ができることを周知するとともに、教育相談担当が面談の体制を整える。
- ⑥面談方法や面接結果についてスクールカウンセラー等から専門的な立場からの助言を得る。
  - ・保護者とスクールカウンセラーとの面談も多いことから、担任の先生は、必要性を感じたら、学校長へも報告し、スクールカウンセラーとの面談を進めるようにさせる。
  - ・この地域では、ネグレクト等から生徒自身の心が荒廃し、いじめへと発展してしまう場合があるので、スクールカウンセラーとの情報交換を密にする。
- ⑦保護者や地域からの情報提供の場をつくる
  - ・いじめ問題に対する学校の考えや取り組みを保護者や地域に発信し、いじめの発見に協力を求める。
  - ・家庭や地域から情報提供があった場合は、誠意をもって対応するとともに、早期に確実に解決するため名前等できるだけ詳細に情報を得るようにする。

### 3 問題への対応（いじめ発見から解決までの取り組み）

1 いじめの情報の把握・いじめの発見  
 発見者→担任→学年主任→生徒指導主事  
 →校長・教頭



2 対応チームの編成  
 学校長の名により、教頭・教務主任・生徒指導主事・学年主任・担任  
 養護教諭・部活動顧問等 事案に応じて柔軟に編成する。



3 対応方針決定・役割分担  
 (1) 情報の整理  
 いじめの態様、関係者、被害者、加害者、周囲の生徒の特徴、対応方針  
 (2) 緊急度の確認  
 ①自殺のおそれはないか。  
 ②不登校につながるおそれはないか。  
 ③報復など暴行のおそれはないか。  
 事情聴取や指導の際に留意すべきことを確認する。特に、本校の場合は、留意  
 しなければならない保護者も多数いるので、対応を十分に配慮する。



4 事実の究明  
 (1) 事情聴取は、被害者→周囲の生徒→加害者の順で実施すること。  
 (2) いじめられている生徒や、周囲の生徒からの事情聴取は、人目につかないよう  
 な場所や時間帯を配慮する。  
 (3) 安心して話せるように、聞く人や場所を配慮する。  
 (4) 関係者からの話に齟齬がないか、複数の教員で確認しながら事情聴取を行う。  
 基本的には、30分程度で、いったん集まって、確認をする。  
 (5) 情報提供者についての秘密を厳守し、報復等が起らないように注意を払う。  
 (6) 聴取を終えた後は、当該生徒を自宅へ送り届け、家庭訪問をし、保護者へ説明  
 を行う。



被害者への対応	加害者への対応	他生徒への対応	保護者への対応
◎共感的に事実を聞き、いかなる理由があっても味方であるという姿勢で対応する。 ○いじめている側の生徒との今後の付き合い方など、行動の行方を具体的に指導する。 ○経過を見守ることを伝え、面談等を定期的に行い、不安や悩みの解消に努める。 ×「君にも原因がある」とか「がんばれ」などという指導や安易な励ましはしない。	◎いじめを行った背景を理解しつつ、行った行為に対しては毅然と指導し、内省させる。 ○被害者の辛さに気づかせ、責任転嫁を許さず、自分が加害者であることの自覚を持たせる。 ○面談や教師との交流を続け、成長のよさを認めていく。	◎いじめは、学級や学年等の集団全体の問題として、教師が生徒とともに本気で取り組んでいる姿勢を示す。 ○いじめの事実を告げることは、辛い立場にある人を救うことであり人権と命を守る行為であることを伝える。 ○周囲ではやし立てていた者や傍観していた者も、問題、問題の関係者であることや被害者の気持ちを考えさせる。	○家庭訪問を行い、事実を正確に伝え、徹底して生徒を守り、支援していくことを伝え、対応の方針を具体的に伝える。 ○いじめの全貌が分かるまで、相手の保護者への連絡を取らないように依頼する。 ○学校長を含むチームで十分に対応を練ってから連絡する。

5 関係機関との連携  
 (1) 市教育委員会・教育相談センター  
 報告と対応方針の相談  
 (2) 警察  
 暴行障害・恐喝等の事件発生の場合  
 (3) 医療機関  
 被害者の心身の外傷  
 (4) PTA  
 本部役員への報告・相談

## 4 いじめ対策組織と年間計画

### (1) いじめ対策委員会の実施

- ・月1回（運営委員会後）行う。
- ・校長，教頭，教務主任，学年主任，生徒指導主事，スクールカウンセラーで構成する。
- ・生徒指導部会（週1回）や学年会での話し合いをもとに，いじめについての実態，取り組みについて協議する。
- ・緊急の対応が必要な場合は，校長の命により臨時的に開く

### (2) いじめ対策担当の設置と業務

- ・いじめ問題解消支援の教員が担当し，経営的視点をもっていじめ対策を推進する。
- ・いじめ対策の全体計画や対応マニュアル等を立案する。
- ・いじめ対策委員会の運営と会議結果の全職員への周知を行う。
- ・いじめ問題に関する校内研修を推進する。
- ・個々の事例に関わる教職員への相談や助言，スクールカウンセラーやスクールサポーター，外部機関との連絡調整を行う。
- ・いじめ指導に関わる記録の集積と引継ぎを行う。
- ・小学校との情報交換を定期的に行う。
- ・教職員の意識向上のための校内研修の実施  
校内研修を計画的に実施し，いじめ問題への対応について，見識と共通理解を深める。

### いじめに関する共通理解事項

いじめとは「子どもが一定の人間関係のある者から，心理的・物理的攻撃を受けたことにより精神的な苦痛を感じているもの」で「いじめか否かの判断は，いじめられた子どもの立場に立って行う」（文部科学省）

いじめの認知は，いじめの解消に向けた  
第一歩



認知件数が多いことは悪いことではなく，いじめ問題に対する意識の高さの表れと考え，件数が多い少ないではなく，認知した事案をどれだけ解決したかが重要である。

### 《いじめ問題の対応に必要な教師の姿勢》

- ・いじめ問題には必ず組織で対応する。
- ・いじめは自分の目だけでは十分に発見できるものではないという認識に立って子どもや保護者からの通報，他の教職員から情報に真摯に対応する。
- ・自分が担当する学級，授業，部活動等を常にオープンにして，多くの教師や保護者等の目に触れるようにしておく。

### 《いじめと犯罪の関係についての認識》

- ・いじめは，当事者間の状況によっては，司法機関と連携し，犯罪（暴行，傷害，脅迫，恐喝，侮辱，名誉棄損罪）として対応する場合もある。

いじめ対策年間指導計画

月	教職員の取り組み			生徒の取り組み	
	対策委員会	校内研修	教育相談	学級活動	生徒会活動
4	○全体計画の検討	○いじめに関する共通理解 (配慮を要する生徒の研修を兼ねる。)	○二者面談  ○第1回学校生活アンケートの実施	○学級のルールや人間関係づくりのための活動	○委員会組織編成 ○思いやり宣言に向けた行動開始
5	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○道徳授業研究 ○7年生の配慮を要する生徒の研修		○学級を一つにしていくための話し合い	○いじめ撲滅集会 ○思いやりカードの作成
6	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○部活動を通しての助け合う集団の育成	○ソーシャルスキルトレーニングの実施		○思いやり生活の振り返り
7	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○三者面談について	○二者面談 ○三者面談(9年)		○リーダー研修会
8	○運営委員会 ○いじめ対策委員会				○合同リーダー研修会
9	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○二者面談	○第2回学校生活アンケートの実施		○リーダー研修会
10	○運営委員会 ○いじめ対策委員会		○学年での教育相談に関するまとめ	○輝翔祭を通して一人一人を大事にした取り組みができたかの話し合い。	○リーダー研修会
11	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○三者面談(9年)	○二者面談		○リーダー研修会
12	○運営委員会 ○いじめ対策委員会				○思いやり生活の振り返り
1	○運営委員会 ○いじめ対策委員会		○三者面談(9年)		
2	○運営委員会 ○いじめ対策委員会		○第3回学校生活アンケートの実施		○リーダー研修会 ○思いやり生活の振り返り
3	○運営委員会 ○いじめ対策委員会	○評価と次年度へ向けての検討	○教育相談のまとめ	○反省と次年度の計画立案	



つくば市立輝翔学園 谷田部中学校

〒 305-0861

茨城県つくば市谷田部 6100

TEL 029-836-0008

FAX 029-836-3726